

第36回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時：2012年3月21日（水）12：00～13：00

場所：福井大学文京キャンパス I会場

議事内容

1. 部会長挨拶（代理）
2. 平成23年度バックエンド部会賞

平成23年度部会表彰者はバックエンド部会表彰委員会での選考及び運営委員会での承認を経て以下の方々に決定したことを報告するとともに、表彰・記念品の授与を行った。

第23年度バックエンド部会賞 受賞者一覧

功績賞

朽山修 殿

表彰理由：

- ・地層処分における性能評価に欠かせない、核種移行研究を長年にわたり進められ、国内外における核種移行研究とその議論をリードしている。
- ・日本原子力学会バックエンド部会部会長（2002年～2003年）を歴任するとともに、バックエンド部会誌に主要な論文を投稿した。
- ・原子力安全委員会等の国の委員会で主査等の要職を歴任し、各課題の審議を主導している。
- ・「高レベル放射性廃棄物」に関する専門家と専門家の対話に参画され、地層処分に反対を唱える専門家とも議論を重ねてきた。
- ・長きにわたり東北大学で教鞭を執られ、教育面においても学生の教育指導に情熱を注がれ、多くの優れた人材を育成された。

業績賞

中山真一殿・大越 実殿・島田太郎殿・立花光夫殿・門馬利行殿・新堀雄一殿・安 俊弘殿・長崎晋也殿

表彰理由：『放射性廃棄物の工学』は、東京大学専門職大学院において刊行されている「原子力教科書」シリーズのひとつとして、放射性廃棄物の課題にこれから取り組もうとしている人々のために執筆された、本書は現在英訳作業が進められており、原子力先進国における放射性廃棄物管理に貢献することが期待されるとともに、東京大学とIAEAとの協力事業の中にもその活用が位置づけられていることから、これから原子力産業が振興する東南アジアの国々の教科書として用いられる予定である。

奨励賞

尾山洋一 殿

表彰理由：「原子力バックエンド研究」 Vol. 18 No. 1に掲載された研究論文「日本列島の非火山地域における深層地下水水質と地質との関係について」は、既存の地下水データベースを用い、日本全国にわたる広域かつ多量のデータを地質毎に分類することにより、地下水

の水質などの物理化学パラメータと地質との関係について、統計的な解析を行ったものであり、地層処分事業のサイト選定やサイト特性調査などにとって、有用性の高い論文であると評価されます。

安江健一 殿

表彰理由：「原子力バックエンド研究」 Vol. 18 No. 2に掲載された研究論文「第四紀後期における内陸部の隆起量の推定手法：鎚川流域および土岐川流域を例に」は、地層処分事業の概要調査等において使われる可能性のある隆起量調査手法について、他の研究機関では実施し得ない大規模で、かつ事例として示された物理探査を用いて検討が行われており、また新たな知見も加えられ、調査手法の信頼性向上に貢献する検討が示されていると評価します。

優秀講演賞

小林一三 殿

表彰理由：原子力学会 2011 年秋の大会口頭発表 B32「緩衝材の再冠水挙動評価（2）ベントナイト系人工バリア長期性能の不確実性軽減のための施工技術の高度化」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

3. 平成 23 年度活動報告

3.1 企画報告

3.1.1 企画 A

①国際会議関係

PBNC (Pacific Basin Nuclear Conference 環太平洋原子力会議) の状況について報告した。2012 年 3 月 18 日～23 日、韓国（釜山）で開催。

プログラム：

- ・ バックエンド部会として、プログラム委員（JAEA 武田様）を選出
- ・ 原子力エネルギーの信頼回復と将来展望を見据え、今回は特に原子力の安全とセキュリティが中心テーマ
- ・ 福島第 1 原発事故に関する特別パネルセッションを開催。内藤正則氏（エネルギー総合工学研究所）、越塚誠一氏（東京大学）、Woody Epstein 氏（東京工業大学）がパネリストとして参加。
- ・ 約 180 件のテクニカルセッションの報告（日本からは 10 件程度）

EAFORM (East Asia Forum on Rad-Waste Management) の準備状況について報告した。バックエンド部会としては、部会の下に EAFORM 小委員会を設置して本会議に関与していることを紹介した。また、次回は 2012 年冬以降で調整中（詳細未定）であることを報告した。

②プログラム編成

2012 年春のプログラム編成委員の紹介を行った。

③大会・年会における企画セッション

・2011 年秋の大会におけるバックエンド部会セッション「福島第一原子力発電所高汚染水の処理処分の課題」について報告した。

・2012 年春の年会における再処理リサイクル部会・バックエンド部会合同企画セッション（「原子力安全」調査専門委員会 クリーンアップ分科会共催）「福島第一原子力発電所の事故に起因する環境修復に関する活動の現状」について報告した。

3.1.2 企画 B

①夏期セミナー

・前回夏期セミナーのアンケート結果を報告した。

・次回の夏期セミナーの案を紹介した。本年度も福島周辺での開催を予定しているが、今後、運営小委員会で議論し、内容が決まり次第、バックエンド部会メーリングリスト及びWEBにて案内することとした。

会場より、開催案内の連絡を早くして欲しいとの要望があったため、対応できるよう運営小委員会で検討することとした。

3.1.3 企画 C

①ポジションステートメント

・第2回ポジションステートメントWG（11月10日）での決定事項として、平成22年度からの継続審議となっていた次のポジションステートメントを採用したことを報告した。

【提言】クリアランス推進に向けて

②地質学会共催・学生ポスター選考

・日本地質学会 トピックセッション「地層処分と地球科学」（平成23年9月9日～11日 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会 2011年年会合同学術大会）の共催について報告した。

・学生セッションポスターの選考委員について紹介した。

3.2 広報報告（週末基礎講座案内等）

①H23年度 部会 HP 小委員会活動について報告した。

②バックエンド週末基礎講座

・平成23年度の週末基礎講座の開催実績について報告した。

日時：基礎講座 H23.10.29（土）

実践講座 H23.10.30（日）

場所：九州大学伊都キャンパス

③福島除染基礎勉強会 報告

第1回勉強会をH24.1.29、福島市五十辺地区で開催した。参加者は、部会メンバー13名、福島五十辺地区の方々約40名、福島県県会議員1名であった。

第2回勉強会（H24.3.25、福島市松川町）を予定していることを合わせて報告した。

3.3 出版報告

以下について報告した。特に、部会員のための部会誌継続のために、引続き積極的な投稿/寄稿、査読へのご協力をお願いした。

- ①部会誌「原子力バックエンド研究」
- ②J-STAGE におけるオンライン公開
- ③出版小委員会の活動
- ④部会員の皆様へのお願い

3.4 庶務報告

- ①海外発表助成制度
 - ・平成 22、23 年度は上下半期とも応募無し
- ②研究会支援制度
 - ・平成 22、23 年度は応募無し

会場より、助成制度の利用がないのは、制度に問題があるのではないか。問題点を分析しているのか、とのご指摘があった。部会として改善点を検討することとした。

3.5 会計報告

平成 23 年度会計報告

- ・通常予算は、バックエンド部会誌の HP 移行等によって外注費支出低減を図ったものの、支出が収入を上回った。
- ・夏期セミナー及び週末基礎講座等のセミナー予算も支出が収入を上回った。
- ・以上、通常予算及びセミナー予算共に、昨年度は支出過多だった。

平成 24 年度予算

- ・学会本部の財政状況の悪化により、部会予算も大幅な緊縮予算が要請されている。
- ・夏期セミナー及び週末基礎講座等のセミナーは独立採算性とする。
- ・通常予算の支出については、前年度予算又は申請額に対して一律 10%削除とする。

3.6 選挙管理委員会報告

平成 24 年度 運営委員改選選挙結果を以下のように報告した。

○バックエンド部会員総数：746 名

○投票数：323 名（43.3%）

○投票結果（敬称略）

		信任	不信任
部会長	山本 正史（原環センター）	310	13
副部会長	長尾 誠也（金沢大学）	308	15
運営委員	北島 英明（原技協）	306	17
	後藤 淳一（原環機構）	307	16
	千田 太詩（電中研）	307	16
	高瀬 敏郎（三菱マテリアル）	307	16
	根木 政広（大成建設）	308	15

以上の全員が信任された。

4. 審議事項

内規の整備に関して経緯を以下のように説明した。「これまで、部会・連絡会が独自に定め管理していた内規を、規定および規約と同様に、学会本会で一元管理することになった。学会事務局より「部会内規」および「表彰内規」を整備するよう指示があった。（内規として扱われるのはこれら2つのみ。部会が管理するその他の文書は要領、申し合わせ等とする。）」

したがって、以下の改訂について運営小委員会の発議に基づく部会全体会議での審議が必要となったため、バックエンド部会内規案について説明を行った。

・「バックエンド部会内規」の内容についての審議

今回新たに作成したもので、主な記載内容は以下の通り。

- ・運営小委員会の職務
- ・小委員会の設置
- ・各小委員会の活動内容

・「バックエンド部会部会賞表彰内規」の内容についての審議

既存の「バックエンド部会 部会表彰規定」を基に作成したもので、現行の内容からの大きな変更点は以下の一点のみ。その他の内容に大きな変更なし。

・改定に関して、運営小委員会の発議に基づく部会全体会議で審議が必要となった。

会場から、内規第4条（小委員会の活動）について、EAFORM 小委員会が抜け落ちているとの指摘があった。この点を修正対応することとし、内規の整備に関して全体会議での承認を得た。

5. その他

処分の説明員登録制度について

会場から、バックエンド部会の役割として社会的貢献が求められていることから、処分の説明員登録制度の進捗状況について質問があった。今年度は十分に議論できなかったが、来年度には運営小委員会内に検討ワーキンググループ等を組織し、実施に向けた議論を進める予定である旨、回答した。

以上